

社会福祉法人中央会 令和3年度事業報告

【施設方針】

施設理念 「家のぬくもり、家族のつながり、地域のつながりのある暮らし」
の実現に取り組む。

1. 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症の感染状況

令和4年1月中旬から新型コロナウイルスオミクロン株の感染者が急激に増加し、特に若い世代での感染が顕著だった。2月には近隣の高齢者施設においてもクラスターが多数発生する事態となり、当施設においても危機感をもって感染予防対策を講じた。一方、オミクロン株は潜伏期間と発症間隔が短く重症化率が低いという特徴も明らかになり、エッセンシャルワーカーの就業緩和が徐々に進み、濃厚接触者は4日目、5日目ともに抗原定性検査が陰性ならば5日目から就業可、また6日目からは検査せずに就業可となった。また陽性だった場合、症状がなければ10日間の療養後に復帰可となった。以前より早期の職場復帰が可能となりマンパワー不足は若干改善された。

3月になり、まん延防止等重点措置は解除となったが感染拡大警報(レベル2)は継続中で、感染者数は高止まりの状況。現在、5月の連休後の1日の感染者数は500人台に増加しており予断を許さない状況である。

(2) 施設内感染状況

令和3年10月に新型コロナウイルスに感染した職員1名が勤務していたことが判明。すぐに接触者全員にPCR検査又は抗原定性検査を実施し、1名に施設内感染したことが判明した。しかし早期発見により感染者は2名に止まり、入居者様への感染やクラスター発生はなく5日の短期間で終息を得られた。

令和4年3月にも小規模多機能において新型コロナウイルスに感染した職員1名が勤務していたことが判明。すぐに在宅の利用者様には自宅に伺ってPCR検査を行い、全員陰性だった。家庭内感染に及ぶ危険性があり家族様に非常な不安感を与える事態となったが、すぐにPCR検査陰性の報告ができ安堵して頂けた。

どちらも金沢有松病院との連携を行い、保健所の指示を待たずに、速やかに利用者様、入居者様、職員の検査を行ったこと、職員の冷静な対応と協力があつたことが感染拡大防止につながった。利用者様、入居者様、職員を新型コロナウイルスから守るためには、施設は自らの判断と行動で対策を行っていかねばならない段階に入っている。

そのほか、家庭内感染で感染者、濃厚接触者となった職員は複数名いたが、家族に感染リスクが生じたり発熱などの症状があつた時点で出勤を停止したため、上記2件以外のコロナウイルスの施設内持込みはなかった。感染状況に応じた感染予防対策は施設全体で行えた。

(3) 新型コロナワクチン接種

令和3年度中に3回の新型コロナワクチン接種を、施設内で訪問診察時に実施した。入居者様本人または家族様に予防の効果と副反応のリスクの双方について説明し全員の同意を頂いた。

職員については、施設内で働く給食、清掃の委託職員にもワクチン接種を行った。持病や妊娠中等で接種できなかった職員には、感染リスクがあることを踏まえ自重した行動を指示している。入居者様に比べ、職員の副反応の発熱者が多かったが、事前に解熱剤の準備を行うことで勤務に大きな支障はなかった。

(4) 新型コロナウイルス感染症の日頃の感染防止対策

- ① 職員の子供さんが通う保育園、小・中・高の学校で、日常的に新型コロナ陽性者が発生したのだが、保育園や学校からの連絡では、陽性者と同じクラスなのかさえ知らせてもらえない状況だった。そのため職員と子供さん共にPCR検査や抗原定性検査を受けてもらい陰性確認後の出勤とした。職員の身近で感染のリスクが多く発生し、自宅待機職員が増えることで深刻なマンパワー不足に陥ったが、職員のシフト変更や残業の協力があるおかげで、何とか運営が継続できた。
- ② 感染防止の追加対策として、更衣室を事業所ごとに配置、出勤時職員玄関でも検温実施、消毒効果の高いアルコールペーパークロスを使用、テーブルの遮蔽用アクリル板の増加、フェースシールド・ゴーグルの購入を行った。
- ③ ショートステイ、デイサービスの利用者様が併用している事業所の多くに、新型コロナウイルス感染者やクラスターが発生した。しかしその事業所や担当ケアマネから報告がないことが多く、利用者様から当施設へウイルス持込みの危険性が高まった。対策として、利用者様の状況によって、利用前にPCR検査又は抗原定性検査の陰性確認を行って頂いた。またお迎えの時には検温や体調確認と同時に、併用した事業所で陽性者が出ていないかの確認を必ず行っている。
- ④ 入居者様の発熱などに対しては、ゾーニングを開始、施設内で抗原定性検査を実施し、指示により金沢有松病院の受診を行った。
- ⑤ 在宅サービス利用者様に発熱などの症状があった場合は、速やかにゾーニングを実施。家族連絡し受診後は検査結果報告を受けた。
- ⑥ 面会は、令和4年1月のオミクロン株の感染拡大後は県内在住の家族に限り2階テラスでの窓越し面会だったが、3月からは県内県外を問わない窓越し面会に緩和した。5月の連休ではたくさんの家族様に面会に来て頂けた。
- ⑦ 職員に対し、職場外での「3つの密」回避の徹底、県をまたぐ移動や帰省の自粛は継続している。
- ⑧ 石川県による高齢者施設等従事者PCR検査を、令和3年6月以降、2週間に1度実施している。

(5) 日常生活の制限

あいこ祭り、あいこ文化祭、季節ごとの行事やドライブ、米泉小学校との交流、清泉中学校・金大附属中学校の職場体験、高校生・大学生のサマーボランティア、西泉婦人部ボランティアなど施設全体の行事や、外部の方々との交流などの生活の楽しみを提供する機会が減った。

代わりに少人数のユニットでできるイベントや毎日のレクリエーション、個別の趣味活動を工夫して、楽しんで頂けるよう努めた。

2. 組織の安定と適正化

特別養護老人ホームの主任とユニットリーダーの交代が重なり退職者が続いたが、現主任に代わってからは安定した運営ができています。ショートステイについても前主任の転居により現主任に代わったが安定した運営ができています。両名とも法人設立時からの職員であり、順調にキャリアアップを積んできており、各事業所間、多職種との連携が適正に行えるよう尽力しています。中央会の理念の実現、事業計画の実行に向けて、リーダーシップを発揮してほしい。

3. 職員育成

新しいユニットリーダーが増えたため、リーダー会議を再開した。事業所やユニットにおける現在の問題点や課題を解決するため、リーダーはメンバーをどう動かしていくかを話し合い、ファシリテーター育成のために、ワークショップ形式で実施した。

行動指針は、

- 「家のぬくもり、家族のつながり、地域のつながり のある暮らし」施設理念をめざす
- 倫理・法令順守を絶えず意識して職員を指導する
- 介護保険法上事業所がやらなければならないサービスを実行する
- P（計画）D（実行）C（評価）A（改善）サイクルの中で、利用者サービスの改善や業務の見直しを行う
- 疑問に思っていることや、自分の考えを積極的に発言して、みんなでよりよいものをつくりあげていけるような職場の風土をつくる

4. 介護職員の確保に努める

新型コロナウイルス感染防止対策上、福祉系の専門学校や大学・職業訓練校などからの実習生の受入れがほとんどできなかったため、就職につなげる機会が減ってしまった。対策として、学校に向けてリモートでの施設紹介を積極的に行った。功を奏し例年以上に多くの学生に施設見学に来て頂けた。見学は事業所の中に入らず、テレビ電話を使って事業所一つひとつを廻ってユニットの中の様子を紹介した。質問もその場でできるため好評で、新卒予定者を含め複数名の採用を得られた。派遣社員を減らすことにもなった。

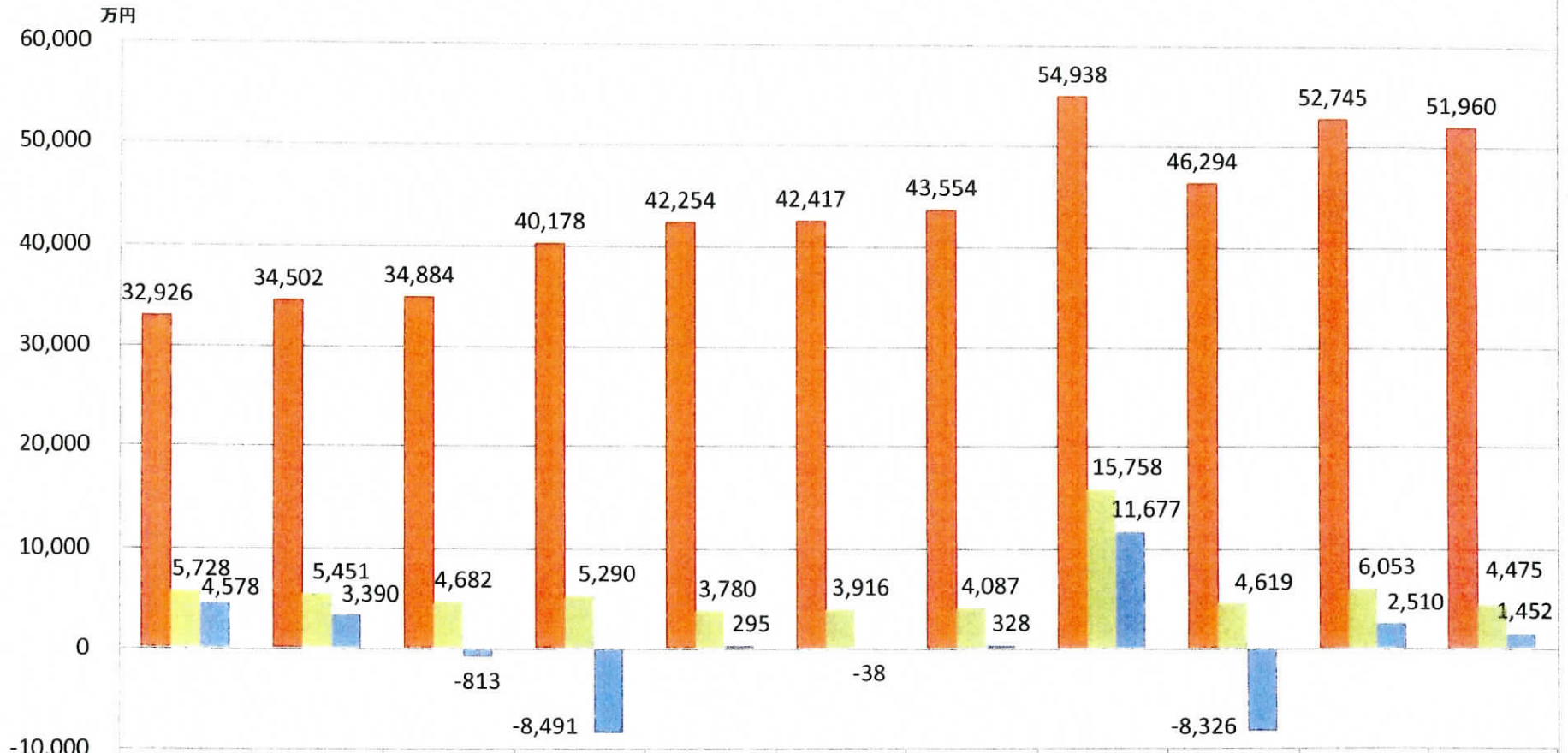
5. 経営基盤の強化と確立

（1）介護報酬改定報告

すべての事業所で基本報酬は 0.4%～2%ひきあげられた。さらに感染対応の経費補填として令和3年度4月から9月まで基本報酬に0.1%の上乗せがあった。

また加算については、科学的介護推進体制加算を全事業所、安全対策体制加算・栄養マネジメント強化加算・褥瘡マネジメント加算を特別養護老人ホームで新たに取得した。

(2) 事業所稼働率と収支報告



	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年
■ 事業活動収入	329,260,422	345,021,821	348,840,442	401,776,992	422,535,137	424,168,645	435,544,661	549,375,014	462,943,603	527,445,984	519,599,881
■ 事業活動資金収支差額	57,282,297	54,509,072	46,824,757	52,899,894	37,801,460	39,160,204	40,870,783	157,580,063	46,194,181	60,531,899	44,746,579
■ 当期資金収支差額合計	45,775,040	33,903,593	-8,134,895	-84,913,222	2,954,170	-380,956	3,280,692	116,765,149	-83,262,745	25,096,793	14,524,273

◇ 人件費率(68.2%)

・事業活動収入は519,599,881円で前年度より7,846,103円減収だった。
 ・特養とショートステイの利用者数が減ったことが全体の収入減少の主な原因となった。
 ・事業活動資金収支差額は44,746,579円で前年度より15,785,320円減収だった。
 ・当期資金収支差額合計は14,524,273円で黒字決算ではあったが前年度より10,572,520円減収だった。
 ・人件費率68.2%で昨年度の人件費率64.8%より3.8%増えたことで支出も増加した。

グループホーム開設

介護報酬減額
介護職員処遇改善加算の増額
職員基本給一万円アップ

借入金償還額ピーク
(3,400万円)
家電品の修理・買換え
パソコンのサーバー入替え

病院より寄付金1,500万円
機械浴修理 避難誘導灯ランプ
交換工事
デイ風呂クロス張替 LED工事

病院より寄付金
1億1,500万円
水道光熱費(電気代値上げ影響受け
昨年と比較し、122万円増
介護報酬増額

グループホーム式番館開設
消費税10%引上げ
介護報酬増額
特定処遇改善加算の新設
新型コロナウイルスの流行

新型コロナウイルスの感染拡大
助成金約600万円)受取
普通車1台軽自動車3台買い替え
石川県ハリアフリー借入金完済
グループホーム武番館北國銀行
返済開始

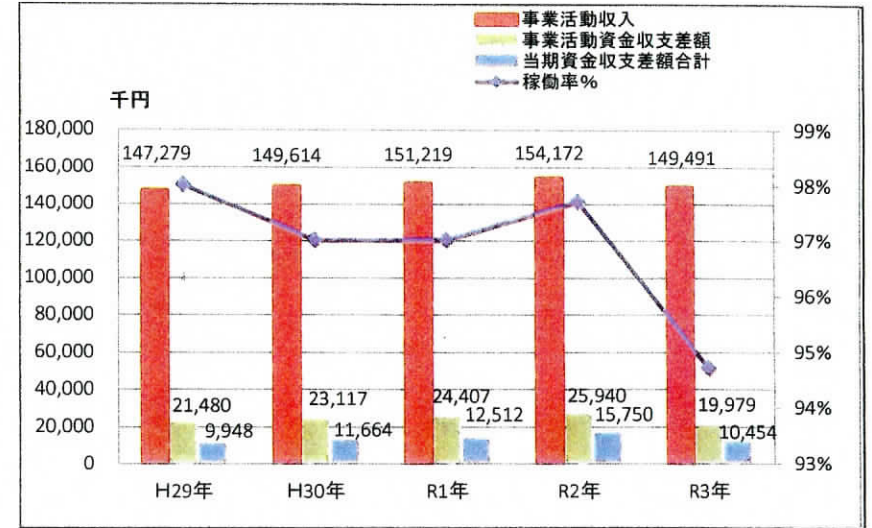
新型コロナウイルスの感染拡大継続
コロナ関連助成金(41万円)
介護報酬増額
水道光熱費(電気代値上げ影響受け
昨年と比較し、227万円増
本館部分の石川県社協借入金完済
グループホーム武番館石川県社協返
済開始

■資金収支比較(特養)

	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年
稼働率%	98%	97%	97%	97.7%	94.7%
事業活動収入	147,278,770	149,614,174	151,218,562	154,171,854	149,491,466
事業活動資金収支差額	21,480,041	23,116,524	24,407,410	25,940,125	19,979,405
当期資金収支差額合計	9,948,065	11,663,563	12,512,460	15,750,359	10,453,614

◇ 人件費率(60.1%)

- ・稼働率は94.7%に下がった。
- ・入居者定員29名中22名が入替わって、1年間の退去者数としては開設以来最も多かった。
- ・入居が追い付かなかったことが例年のない稼働率の悪さの原因となった。
- ・事業活動収入は149,491,466円で前年度より5,288,797円減収だった。
- ・事業活動資金収支差額は19,979,405円で前年度より5,960,720円減収だった。
- ・当期資金収支差額は10,453,614円で前年度より5,296,745円減収だった。
- ・経営上、収入の大きなウエイトを占める部署であることから、影響は大きかった。

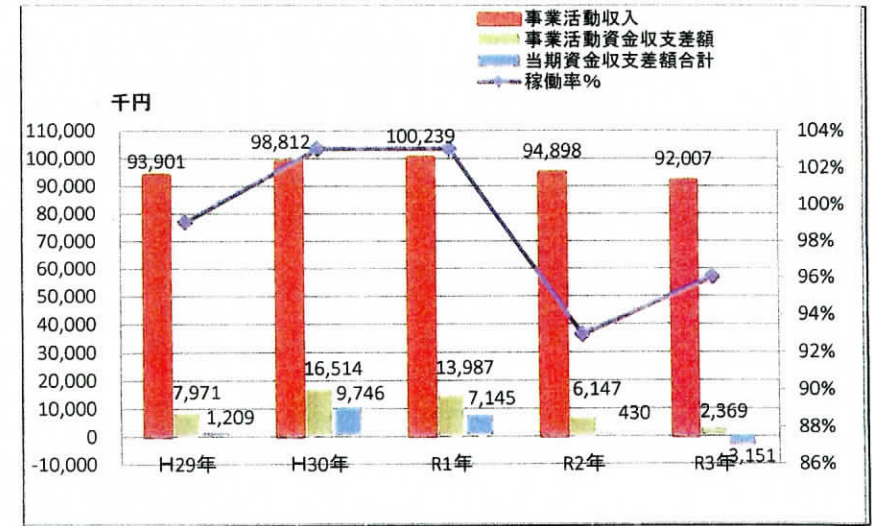


■資金収支比較(ショートステイ)

	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年
稼働率%	99%	103%	103%	92.9%	96%
事業活動収入	93,900,668	98,811,788	100,239,468	94,897,901	92,007,320
事業活動資金収支差額	7,971,484	16,513,535	13,986,718	6,146,597	2,368,968
当期資金収支差額合計	1,208,593	9,746,459	7,145,253	429,647	-3,150,757

◇ 人件費率(72.6%)

- ・前年に比べ稼働率96%にやや回復したものの、事業活動収入は92,007,320円で前年度より2,890,581円減収だった。
- ・原因として、前年度にコロナ禍対策として支給された緊急短期入所受入加算と交付金が今年度は無くなったことで約364万円の収入減になったこと、令和3年2月から令和3年6月にかけて新型コロナウイルス感染拡大感染防止対策として利用をお断りする場合は、利用者様が利用を控える状況が生じ稼働率が80%台に下がったこと、平均介護度が2.7から2.4に下がったことがあげられる。
- ・事業活動資金収支差額は2,368,968円、前年度より3,777,629円減収だった。
- ・当期資金収支差額合計はマイナス3,150,757円の赤字となった。前年度より3,580,404円減収だった。
- ・前年度はコロナ禍加算や交付金で赤字は免れたが、今年度は開設以来初めての赤字経営となった。
- ・在宅のため感染者リスクは高い。しかし利用者に来てもらわなくてはならないという運営の難しさがあった。

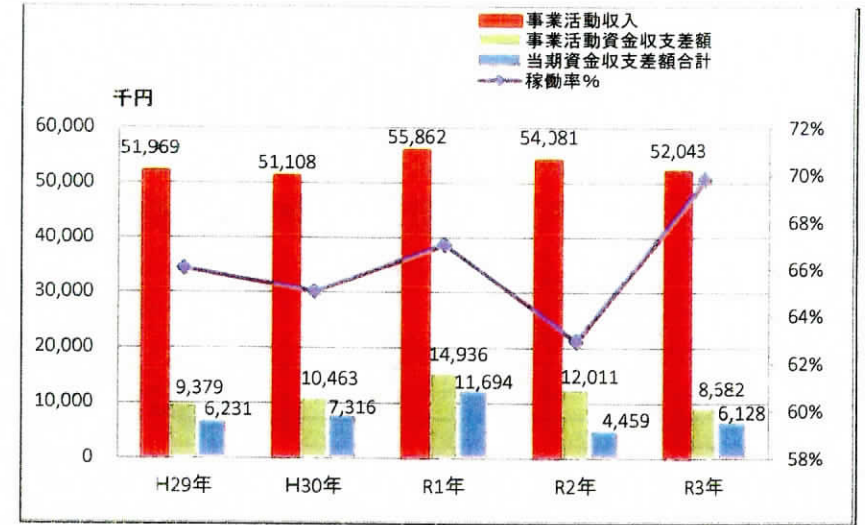


■資金収支比較(デイサービス)

	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年
稼働率%	66%	65%	67%	62.9%	69.8%
事業活動収入	51,968,513	51,107,965	55,861,562	54,080,553	52,042,696
事業活動資金収支差額	9,379,163	10,462,771	14,935,702	12,010,639	8,681,872
当期資金収支差額合計	6,231,044	7,315,873	11,693,720	4,458,850	6,128,198

◇ 人件費率(58.5%)

- ・稼働率は69.8%に増えた。
- ・しかし事業活動収入は52,042,696円で前年度より2,037,857円減収だった。
- ・原因は介護保険報酬の高い要介護者が減り、介護報酬の低い要支援者や総合事業対象者が増えたことである。平均介護度が1.8から1.4に下がっている。要介護の利用者が減ったのはショートと同じく感染防止対策として利用をお断りする場合や、利用者様が利用を控える状況があったことが大きな原因である。
- ・事業活動資金収支差額は8,681,872円で前年度より3,328,767円減収だった。
- ・当期資金収支差額合計は6,128,198円、前年度より1,669,348円増収だった。
- ・利用者数は増えているので継続して利用して頂けるよう努力していく。

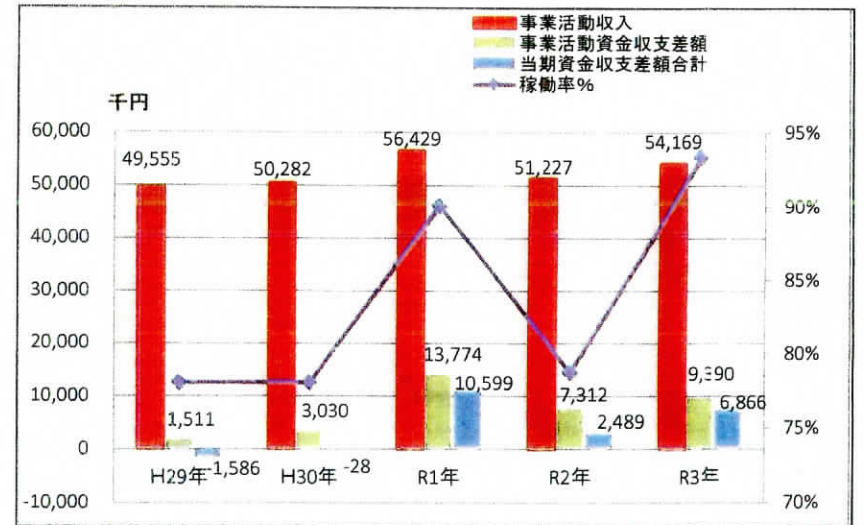


■資金収支比較(小規模多機能)

	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年
稼働率%	78%	78%	90%	78.7%	93.3%
事業活動収入	49,555,204	50,281,517	56,428,762	51,227,482	54,169,437
事業活動資金収支差額	1,510,557	3,030,001	13,773,740	7,312,360	9,389,639
当期資金収支差額合計	-1,585,929	-28,298	10,598,637	2,489,410	6,865,714

◇ 人件費率(63.1%)

- ・稼働率は93.3%に増えた。
- ・事業活動収入は54,169,437円で前年度より2,941,955円増収だった。
- ・事業活動資金収支差額は9,389,639円で前年度より2,077,279円増収だった。
- ・当期資金収支差額合計は6,865,714円で前年度より4,376,304円増収だった。
- ・経営は順調だった。

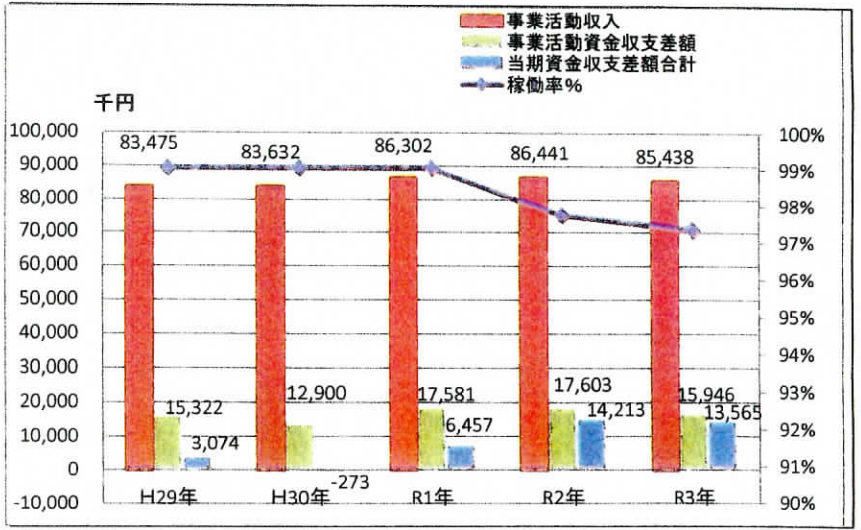


■資金収支比較(グループホーム)

グループホーム		H29年	H30年	R1年	R2年	R3年
	稼働率%	99%	99%	99%	97.7%	97.3%
	事業活動収入	83,474,814	83,632,059	86,301,969	86,441,320	85,438,343
	事業活動資金収支差額	15,321,896	12,899,542	17,580,834	17,603,004	15,946,463
	当期資金収支差額合計	3,073,672	-272,542	6,457,335	14,213,142	13,565,271

◇ 人件費率(65.6%)

- ・稼働率は97.3%で若干下がった。
- ・開設当初に入居された方々の医療度が上がり入院が増えたことが主な原因である。
- ・事業活動収入は85,438,343円で前年度より1,002,977円減収だった。
- ・事業活動資金収支差額は15,946,463円で前年度より1,656,541円減収だった。
- ・当期資金収支差額合計は13,565,271円で前年度より647,871円減収だった。
- ・昨年度で北國銀行借入金返済が終了しているため経営はほぼ順調だった。

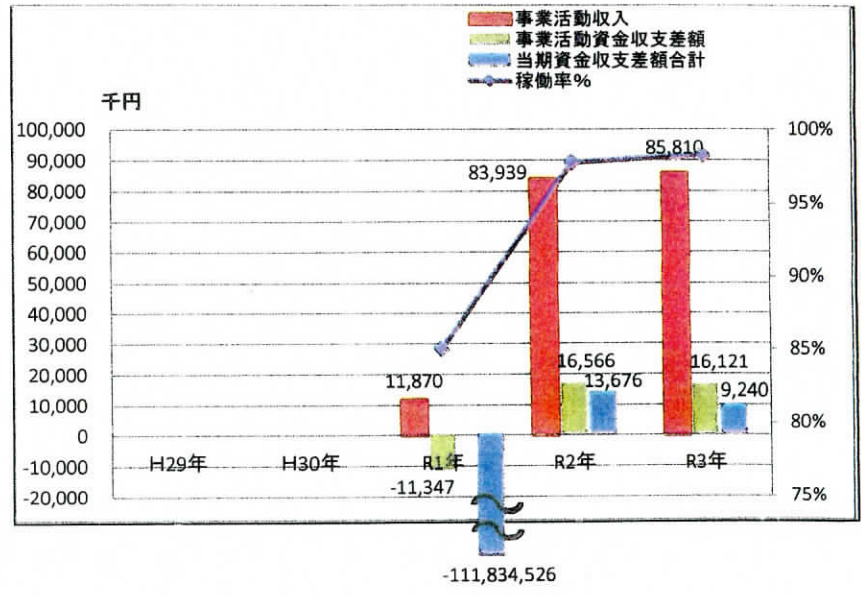


■資金収支比較(グループホーム三番館)

グループホーム		H29年	H30年	R1年	R2年	R3年
	稼働率%			85%	97.7%	98.2%
	事業活動収入			11,869,992	83,939,446	85,810,492
	事業活動資金収支差額			-11,347,435	16,566,144	16,121,175
	当期資金収支差額合計			-111,834,526	13,676,282	9,239,983

◇ 人件費率(68.4%)

- ・稼働率は98.2%だった。
- ・事業活動収入は85,810,492円で前年度より1,871,046円増収だった。
- ・事業活動資金収支差額は16,121,175円で前年度より444,969円の減収だった。
- ・当期資金収支差額合計は9,239,983円で前年度より4,436,299円減収だった。
- ・今年度から北國銀行借入金返済(4,830,000円)と石川県社会福祉協議会借入金返済(2,000,000円)が開始になったことが原因である。
- ・経営は安定している。



(3) 事業活動支出報告

① 人件費について

新型コロナウイルス感染症が流行する中で、特に感染防止に留意して働く、介護職員に向けて、国より「介護職員処遇改善支援補助金」が交付される事となった。期間は令和4年2月から9月までとなっており、約3%の賃上げを目的としている。当施設としても職員の士気を高めるため取得に踏み切り、常勤職員で月に5,600円、パート（雇用保険加入者のみ）月に2,800円の手当を実施した。10月以降も、臨時の介護報酬改定にて、同様の措置が継続される予定である。

前年度末から年度初めにかけて、退職者が多く引き継ぎのための費用が余分にかかってしまった事、人員補充が急務だったため、費用の掛かる派遣職員による補強をせざるを得なかった事などから、人件費が前年比約1,222万円増額となった。下半期は、職員の応募が増えてきた為、採用にあわせて派遣社員の契約終了にて支出の抑止に努めた。

② 事業費について

前年との差額は約37万円の増額となった。新型コロナウイルスの影響にて高騰していた消耗品や衛生用品等の価格が徐々に低下し元の価格に戻りつつあるため、前年度よりも安価で仕入れられたことや、GHの食材の調達・調理方法の工夫で給食費等の費用を抑えることができたが、社会情勢等の影響から、水道光熱費の支出が増えるかたちとなった。石油価格の高騰による電気代の値上げや、コロナウイルス感染症対策として実施している常時換気しながらのエアコン使用により、例年以上に電気の使用料も増えている。これらの要因が合わさり、値上げと値引き額の減額にて、前年との差額は約227万円の増額となった。価格の高騰に対しての対処は難しい部分もあるが、コロナ感染対策に留意しつつ、自分たちが出来る限りの節電対策を実施していかなければいけない。

③ 事務費について、

前年比約391万円の費用を削減できた。費用を大きく抑えられた部分としては、年度初めには即戦力となる人材の補強を急務としていたことから、経介会社への依頼を行ったが、それ以降は、就職フェアや専門学生等の求職者に対しての求人活動が功を奏し、大きな費用をかけずに人材を採用することができ、前年比約439万円の削減を図れた。反対に、費用が増えた部分としては、修繕費用が前年比約106万円増額となった。貯湯槽の水漏れ修繕に47万円、3階階段室雨漏れ修繕と、今後を見据えて1階、2階階段室の窓枠コーキングも行った費用で55万円。この2つが前年比との差額の大きな要因となっている。

④ 資産管理について

本年度は、特養・ショート主任兼用のパソコンを1台追加。また、開設当初から使用している送迎車の買い替えも視野に入れて予算を計上していたが、大きな故障もなく今回は見送った。次年度の予算にも、万が一に備えて予算を計上している。その他、施設設備の老朽化により、エアコンの修理件数や、貯湯槽の水漏れ、施設の雨漏れ等、修繕が増えている。

修繕では対応不可となり、取替えが必要な設備が今後増えてくることが予測されるため、費用対効果をみて買い替えの時期を慎重に検討していく。

⑤ 財務管理について

本年度の借入金の返済額は、当初予算通り約2,700万円（利息分含む）を返済した。前年度に石川県バリアフリー施設整備促進融資への支払いが完済した事と、独立行政法人福祉医療機構の利息の減額により、例年よりも返済が減額することを見越し、GH式番館の石川県社協への返済を開始した。来年度は、本年度で本館部分の石川県社協への返済が完済した為、約200万円の減額となり、約2,500万円を予定している。また、令和12年度で、すべての借入金の完済を計画している。

6. 令和3年度の事業所評価

特別養護老人ホーム

- (1) 忙しい時間帯に接遇ができていなかった、なれなれしい言葉使いになっていたと気づくことがあった。
- (2) 業務の合間に入居者様と積極的にコミュニケーションをとり、季節ごとの行事と一緒に楽しむことができた。
- (3) 感染予防対策の影響で規模を縮小しなければならなかった行事もあった。次年度は少人数でもできる行事を企画していく。
- (4) 入居者様のより良い生活のためにケアを検討し実施するように努力できた。管理栄養士・ケアマネ・看護師とも互いに話し合い連携することができた。
- (5) 新人職員への指導を通じて自身の技術の再確認ができ、よりよいケアを心がけることができた。
- (6) 痰の吸引の実習を受けている人が多かったので、各々勉強する機会を持っていた。

グループホーム

- (1) 重度者の介護の習得については、介護度や医療度の高い入居者様の多くが特別養護老人ホームに移り、実践的に身につける機会が減った。職員の入れ替わりで全くの新人が多くなったことから、今後の課題となった。
- (2) ユニット間の「報・連・相」については、ノートの活用を徹底し細かなことも伝わるようになった。日々起こることについても情報共有はできていた。
- (4) 現場の雰囲気はとても良くなり、職員間の問題は現状見られていない。お互いに補い合うことができているように感じる。

グループホーム式番館

- (1) 入居者様の介護度が高くなり、徐々に医療度も高くなってこられた方については、主治医や看護師にアドバイスを頂きながら、職員で工夫しながらケアを行うことができた。施設内外の研修にも参加できた。
- (2) コロナウイルス感染予防対策をとりながら季節を取り入れたメニュー、イベント食、嗜好調査を基にした食事の提供ができた。

- (3) 機能訓練は、個別メニューに従い行うことができた。日々のレクリエーションについてはユニット間に差があったので、今後さらに充実させていく。

ショートステイ

- (1) 余裕のある時にはきちんと利用者様に寄り添うことができたが、余裕がなく慌ただしい時の特に落ち着かない利用者様に対しての接遇については徹底ができていなかった。
- (2) 「報・連・相」を心がけたが“聞いていない”が多く、ケア内容のずれを生じさせたり、退居時の忘れ物にもつながった。「報・連・相」の徹底と情報共有に努めていく。
- (3) 長い滞在の利用者様や、担当職員の決まっている利用者様のケアプランは把握できていたが、短期利用の利用者様のケアプランについては把握しきれないことがあった。

小規模多機能

- (1) 「～したい」を聞き出すことは難しいが、コミュニケーションを多くとり日常の会話で気が付いた利用者様の望みをキャッチし、実行するように努めた。
- (2) 利用者様にできることを一つ増やすことは容易なことではなかったが、“やってみよう”と意欲が出るような声かけや励ましを行えた。
- (3) 訪問サービスではご自宅ごとに統一しなければならぬケア内容が多いため、間違いがないように申し送りノートやパソコンソフト内の記録などで情報を共有するように努めた。
- (4) 介護力向上委員会の研修資料を用いて実践でのケア向上ができた。

デイサービス

- (1) 運動系や制作系等、利用者様のニーズやプランに沿ったレクリエーションの提供ができ個々に楽しんで頂けた。次年度もご本人に選んでいただけるように複数の選択肢をご用意していく。
- (2) 身体拘束廃止委員会、虐待防止委員会による職員の行動の振り返りミーティングを行ってきた。振り返る中で、とっさに出てしまった言葉や行動を素直に反省し、意識してケアに取り組むための良いきっかけとなった。
- (3) お試し利用の方の事前情報をきっかけにコミュニケーションを多くとり、趣味や希望に沿ったレクリエーションを会話の中から引き出すことに努めた。

看護部

- (1) 令和2年度と比較して、体調不良による受診や急変が多く、そのため入院や退居も多かった。受診については、病院への状態報告や連絡調整などの対応はできていた。入院者が多かったという点では予防的なかわりができればよかった。
- (2) カンファレンスなどでは、入居者様の日常生活面での把握ができていないことがあった。体調面の情報提供はできていたが、その際には他職種にも共通理解できるように、分かりやすく伝えていく配慮が必要だった。

栄養部

- (1) 食事の量が多い日、少ない日があると指摘があった。人数の変動で多少増減することがあったことについて、献立の量の見直しや、盛り付ける人の適量感覚を確認し合うように改善していく。
- (2) 利用者様、入居者様の要望を柔軟に受け入れ、献立に反映することができた。
- (3) コロナ禍でも食事が楽しみな時間になるよう努めた。ミールラウンドでは「いつも美味

しいです」「ありがとう」の声をたくさん頂き良かった。

(4) セレクト食がマンネリ化しているのでメイン菜のセレクトのバリエーションを増やしていく。

(5) ノロウイルス感染発生時の対策について、感染委員会と話し合い給食会社と連携したフローチャートを作成した。

事務部

(1) コロナ感染防止対策により、受付でご家族様と各事業所との間を取り持つ機会が増えている。お互いに情報の共有を意識して各事業所との連絡・調整等がスムーズに行えている。また、感染等の状況で、面会の方法など日々変わるので、新しい情報をしっかりと把握して感染防止に努める。

(2) コロナの影響で、ご家族様も思うように利用者様とお会いできずに受付で用事を済ませて頂くことが多くなっている。業者様や町内会の方との関係も希薄にならざるを得ない状況だが、お互いの近況を話すなど、良好な関係でいられるような接遇を心がけている。

(3) 施設内外の環境整備は、意識してこまめにチェックすることができていた。

(4) 福祉用具等備品管理や、不用で溜まっていた倉庫や各事業所の不燃物を処理することができた。

7. 特別養護老人ホーム入退所（定員29名）

年 度 月	新 規 入 所 者				退 所 者					
	在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
令 和 3 年 度	4	1		1				2		2
	5	3		4		2		1	1	4
	6		1	2	3		2			2
	7		1		1		1			1
	8				0					0
	9	1	1		2		1	1		2
	10		1		1		1		1	2
	11	1		2	3			1	1	2
	12	1		1	2		2			2
	1		3		3		2	1		3
	2	2			2		1		1	2
	3				0					0
	計	9	7	6	22		12		6	4

グループホーム入退所（定員18名）

年度	月	新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
令和3年度	4									1	1
	5	1			1						
	6	1			1			1			1
	7			1	1			1			1
	8										
	9	1			1		1				1
	10								1		1
	11	1			1		1				1
	12			1	1						
	1			1	1			2			2
	2			1	1						
	3	1			1		1				1
計		5		4	9		3	4	1	1	9

グループホーム式番館入退所（定員18名）

年度	月	新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
令和3年度	4			1	1		1				1
	5										
	6										
	7						1				1
	8			1	1						
	9	1			1			1			1
	10						1	1			2
	11	2			2						
	12										
	1							1			1
	2	1			1						
	3										
計		4		2	6		3	3			6

8. 救急車搬送状況

年度	月	件数	部署	状況
令和3年度	4	4	特別養護老人ホーム	急性腎盂腎炎 肺血症ショック
			特別養護老人ホーム	脳梗塞疑い
			デイサービス	めまい 嘔吐
			ショートステイ	嘔吐 SP02低下
	5	1	特別養護老人ホーム	大動脈瘤破裂
	6	1	グループホーム式番館	肺炎
	7	1	グループホーム	レベル低下
	8	3	特別養護老人ホーム	嘔吐 血圧低下 脳梗塞疑い
			特別養護老人ホーム	肺炎
			特別養護老人ホーム	意識消失
	9	1	特別養護老人ホーム	腹部膨満 ショック状態
	10	3	特別養護老人ホーム	SP02低下
			グループホーム式番館	SP02低下
			グループホーム	意識レベル低下
	11	2	特別養護老人ホーム	呼吸状態、意識レベル低下
			グループホーム	意識消失 SP02低下
12	3	グループホーム式番館	転倒 後頭部打撲	
		特別養護老人ホーム	誤嚥性肺炎	
		ショートステイ	肺炎	
1	3	デイサービス	脱水 嘔吐 意識レベル、血圧低下	
		特別養護老人ホーム	意識消失 嘔吐 SP02低下	
		ショートステイ	左大腿骨骨折	
3	1	グループホーム	左大腿骨骨折	
合計件数		23		

9. 事故発生状況（金沢市報告）

[R3年4月1日 ~ R4年3月31日]

部署	件数	内容	状況
特養	4	左大腿骨顆上骨折	移乗する介助を行った際、左脚を捻ってしまい受診。数日後発熱し肺炎にて入院。入院中左脚の痛みや腫脹が続いており再度レントゲン撮影した結果、左大腿骨顆上骨折との診断。原因は不明で骨粗鬆症ありだんだんと骨が転位した可能性があるとのこと。
		職員による新型コロナウイルスの施設内持ち込み	職員Aが会食後、同席した友人が感染者であることが判明。濃厚接触者とみなされる以前に施設内で勤務していた際に接触した看護師Bにも感染。全職員と利用者にPCR検査実施し、その他に感染者なし。
		左大腿骨顆上骨折	移乗時、健側の右足に力が入らず膝折れあり、職員にしがみつきぶら下がった状態になった。麻痺側の左足に居和感あり受診し左大腿骨顆上骨折の診断があった。
		誤嚥性肺炎	昼食を自力摂取中、激しい咽込みあり。顔色不良、口唇にチアノーゼがみられた。看護師が吸痰施行すると、顔色や口唇チアノーゼも徐々に回復していったが、SP02上がらず、呼吸状態不安定の為、救急搬送。

ショートステイ	5	転倒 裂傷	朝方、居室より物音がし訪室するとタンス前にうつぶせの状態転倒。タンスのヘリにぶつかった様で額に直径1.5cm程の裂傷と出血見られ受診。額の傷にホッチキス固定とCT検査行。異常なし。	
		転倒 打撲	夕方、フロアで過ごされていたが歩行不安定の中、自身で歩かれ他居室前で右側臥位の状態転倒。痛み、外傷なく様子観察していたが徐々に右顎の内出血と右肩、右足の痛み、右足の腫脹軽度見られたため翌日受診。右足のレントゲン、顔面のCT検査行。検査結果打撲。	
		転倒 打撲	朝方、センサーマットが反応し氏の居室に駆けつけている間に「ボタン」と物音がし訪室すると右側臥位の状態転倒。右側頭部から右こめかみにかけての痛みが継続しているため受診。レントゲン、MRI検査行。結果結果打撲。	
		転倒 左大腿骨転子部骨折	夕食後フロア椅子に座り過ごされていたが居室かトイレに行こうとされた様で椅子からの立ち上がりの際重心が後ろにかかりそのまま尻もちをつく。外傷見られないが左大腿部の痛みが強く腫脹も見られたため緊急搬送を行った。検査の結果左大腿骨転子下骨折で入院となる。	
		転倒 打撲	就寝介助度居室より「ゴツン」と物音がした為居室に駆けつけると壁側を背にもたれかかるように尻もちをついていた。外傷は見られなかったが左側頭部痛み腫脹軽度見られたため受診。レントゲン、CT検査の結果、打撲。	
グループホーム	4	転倒 右大腿骨転子部骨折	コミュニケーション不可で、不意の動きがある方の入浴を終え、手引き歩行にて脱衣室に向おうとした際、片方の手がまだしっかり繋がっていない状態の時に、一歩踏み出されて転倒。救急搬送し右大腿骨転子部骨折と診断され入院となった。	
		転倒 裂傷	夜間居室内を歩かれていて転倒。転倒時にベッド下部の板部分に頭をぶつけたと思われ、音がして居室に駆けつけたと同時に、頭部から多量の出血あり、興奮と止血後に受診。頭部に2cm程度の裂傷あり、4箇所ホッチキスをかける。	
		転倒 恥骨骨折	居室より声かして訪室すると、歩行器での歩行中に転倒されていた。痛みが強く歩ける状態ではなかったため、受診。検査の結果恥骨骨折と診断され入院となった。	
		転倒 右大腿骨頸部骨折	居室より音がして訪室。ベッド再度で転倒されていた。起き上がることができず、職員数名でベッドに移乗後、痛みが強くなり、全く動けなくなったため救急搬送し右大腿骨頸部骨折と診断され入院となった。	
グループホーム 式番館	5	転倒 額切り傷	居室で音がして法室。ベッドに背を向け左側臥位になっているのを発見した。タンスの上の者をとろうとされたとのこと。額より出血あり、痛みの訴えもあったため、受診したが、出血はすぐに止まり特に処置なし。他検査するが異常なかった。	
		左腕・左脇皮下出血	入浴時に左腕と左脇に皮下出血を発見した。痛みがあるため受診。検査結果骨に異常なし。湿布と鎮痛薬で対応した。移乗時にぶつけたと思われる。	
		転倒 左大腿部頸部骨折	夜間職員が他の入居者介助中で、本氏は就寝介助終わり、一旦臥床されていたが、出かけようと思いつき、着替え中に転倒する。左大腿部の痛み強いため受診する。左大腿部頸部骨折と診断、入院となる。	
		転倒 クモ膜下血腫	更衣については自立されていた為一人でパジャマ着替え中に転倒され、床に仰向けになっていた。後頭部の痛み激しく、血圧170台、吐き気あり、救急搬送する。クモ膜下血腫との診断で、入院。約1週間後退院された。	
		転倒 頭部打撲	退院数日後でふらつきあり、トイレで転倒され、便器と扉の間で床に倒れている状態で発見する。便器に頭をぶつけたとおっしゃり、頭部に痛みの訴えあり。受診するが検査結果異常なし。GHに戻り様子観察するが特変なし。	
小規模多機能	0			
デイサービス	0			

10. 職員の採用・退職の状況

[R3年4月1日 ～ R4年3月31日]

職種別	施設長	事務員	直接処遇職員							栄養士	宿直	合計
			相談員 生活	介護員	看護員	機指 導員	マケ ネア	小計				
令和3年度	採用	0	0	0	23(13)	0	1(1)	1(1)	25(15)	2	0	27(15)
	退職	0	0	0	23(13)	1	1	3(3)	28(16)	2	0	30(16)
	3月末職員数	1	4(2)	1	95(22)	6(3)	1(1)	2	105(26)	1	2(2)	113(30)

()はパート・派遣社員等非常勤人数

11. 施設職員の研修状況

[R3年4月1日 ～ R4年3月31日]

	回数 (延べ人数)	
新人研修	2回 (17名)	施設理念・法令遵守・多職種連携 感染・褥瘡 事故防止 各部署の概要と活動 身体拘束排除・プライバシー保護 など
職場外研修	29回 (52名)	石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター等の研修会・オンライン研修に参加
職場内研修	9回 (180名)	水害時対応訓練 褥瘡・栄養・水分(脱水) 事故に関する報告書
		バイタルサインのチェック(実践編) 認知症ケア 身体拘束、虐待防止
		地域の社会資源の把握及び連携 施設における感染症対策
		事業所発表(ショート・回想法 特養・看取りについて)
外部講師研修会	7回 (146名)	新人接遇・接遇フォローアップ研修 中堅主任リーダー研修
		福祉用具について 吐物処理実技・感染症対策

令和3年度 寄付申込一覧

	寄付年月日	寄付者	内容
1	令和3年5月10日	グループホーム 式番館入居のご 家族様	ポータブルトイレ
2	令和3年7月10日	特養入居の ご家族様	スライディングボード
	令和3年8月4日	特養入居の ご家族様	金20,000
	令和3年9月28日	特養入居の ご家族様	金100,000
	令和3年11月21日	特養入居の ご家族様	センサーマット
	令和3年12月19日	職員のご友人	冷凍庫
	令和4年2月25日	特養入居の ご家族様	車椅子